# 2025年度第1四半期 決算報告書

## プレスリリース

2025年4月24日、パリ

## 当グループの事業部門は好調な業績を達成

| | | 2025年度 第1四半期 （単位：百万ユーロ） | 対2024年度 第1四半期[1] 増減率 |
|---|---|---|---|
| **営業収益は大幅に増加**<br>*事業部門：2024年度第1四半期比+6.1%*<br>• CIB部門の四半期業績が過去最高を記録（2024年度第1四半期比+12.5%）<br>• CPBS部門の業績が好調（2024年度第1四半期比+1.2%）<br>• IPS部門の四半期業績が非常に好調（2024年度第1四半期比+6.6%） | — 収益 | **12,960** | **+3.8%** |
| **業務効率化**<br>事業部門のジョーズ効果：+1.9ポイント | — 営業費用 | **8,257** | **+4.0%** |
| 当グループの顧客基盤の質の高さにより、**リスク費用**[2]は適度な水準を維持 | — リスク費用[2] | **33 bps** | **+4 bps** |
| **営業利益**<br>*事業部門：2024年度第1四半期比+6.7%* | — 営業利益 | **3,922** | **+0.3%** |
| **当グループの純利益は堅調に推移**<br>注：2024年度第1四半期の一時項目は高水準であった | — 純利益[3] | **2,951** | **-4.9%** |
| **1株当たり純資産額**[4] | — 純資産額 | **95.8ユーロ** | |
| **財務構造**は非常に良好 | — 普通株式等 Tier1 | **12.4%** | |

**2025年度の利益分配***

**2024年度の配当（4.79ユーロ）**：2025年5月21日支払

**2025年度の中間配当**：2025年9月30日支払

**自己株式取得（1.08十億ユーロ）**：ECBからの認可を取得、2025年度第2四半期に開始予定

**2025年度第1四半期の事業部門の業績は、**
**2024年度-2026年度の予想される成長目標に沿ったものです。**

* 2024年度の配当：2025年5月13日開催の年次株主総会での承認を前提とします。

BNP PARIBAS

The bank for a changing world

BNPパリバの取締役会が2025年4月23日に開催され、ジャン・ルミエール会長が議長を務める中、当グループの2025年度第1四半期の業績が検討されました。

ジャン＝ローラン・ボナフェCEO（最高経営責任者）は取締役会の最後に、以下のように述べました。

*「当グループは、2025年度第1四半期において、チームの貢献およびプラットフォームのパフォーマンスにより、非常に良好な業績を達成しました。当グループは、多角的なビジネスモデルおよび経済サイクルに対する耐性を強みとし、2024年度-2026年度の目標を確認しました。不確実な環境下で、欧州は再投資を進めています。2025年3月は、ドイツにおける新たな投資計画、2030年度準備計画および欧州委員会による貯蓄投資同盟（SIU）戦略の発表により、転換点となりました。当グループは、中期的に実現が見込まれるこの新たな投資サイクルを支援する上で最適なポジションにあります。最後に、お客様に対する、すべてのチームの継続的な献身に謝意を表します。」*

# 2025年3月31日現在のグループ業績

## 2025年度第1四半期の当グループの業績

営業収益

2025年度第1四半期において、**グループ全体の銀行業務純益**は、12,960百万ユーロとなり、2024年度第1四半期[1]と比較して3.8%増でした。事業部門の営業収益は、2024年度第1四半期と比較して6.1%増でした。

**ホールセールバンキング（CIB）部門**は、3つの事業部門すべての非常に好調な業績がプラスに影響したことにより、過去最高の四半期業績を達成しました（前年同期比+12.5%）。グローバル・バンキング事業（前年同期比+4.5%）は、キャピタルマーケット事業に加え、トランザクションバンキング業務における堅調な事業活動により好調でした。グローバル・マーケット事業（前年同期比+17.3%）は、株式・プライムサービス事業（前年同期比+42.1%）およびFICC事業（前年同期比+4.4%）における力強い増加に支えられました。FICC事業は、マクロ経済関連事業の影響を受けました。証券管理事業の営業収益（前年同期比+13.4%）は、（残高および取引に係る）手数料により増加しました。

**コマーシャル＆個人向けバンキングサービス（CPBS）部門**[5]の銀行業務純益は、コマーシャル＆個人向けバンキング事業における好調な伸び（前年同期比+4.2%）により増加しました（前年同期比+1.2%）。

コマーシャル＆個人向けバンキング事業では、預金残高（前年同期比+1.9%[6]）および融資残高（前年同期比+0.8%[6]）がわずかに増加しました。営業収益は、ユーロ圏で好調に推移し（前年同期比+0.6%）、欧州・地中海沿岸諸国では大幅に増加しました（前年同期比+19.5%）。

専門的金融事業では、アルバルとリーシング・ソリューションズの営業収益（前年同期比-11.8%）は、有機的営業収益の大幅な増加（前年同期比+12.3%[7]）が示すように、業績が好調であったにもかかわらず、アルバルにおける中古車価格の正常化の影響を受けました。リーシング・ソリューションズの営業収益は、前年同期比6.1%増でした。パーソナル・ファイナンスの主要対象範囲[8]の営業収益は、取引高の増加および組成時の利鞘の増加により増加しました（前年同期比+2.0%）。ニューデジタル事業と個人投資家事業の営業収益は増加しました（前年同期比+0.1%、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと前年同期比+13.1%）。

**インベストメント&プロテクションサービス（IPS）部門**は、保険事業、アセット・マネジメント事業およびウェルス・マネジメント事業により、当四半期において非常に好調（銀行業務純益：前年同期比+6.6%）でした。保険事業の営業収益（前年同期比+4.1%）は、主としてフランスにおける貯蓄型保険業務の増加に支えられ、増加しました。ウェルス・マネジメント事業は、手数料の増加により、大幅増収を達成しました（前年同期比+10.7%）。アセット・マネジメント事業は、手数料の増加により、また市場の勢いおよび好調な金融投資に支えられ、当四半期において好調（前年同期比+5.9%）でした。

営業費用

営業費用は、当四半期において8,257百万ユーロとなりました（前年同期比+4.0%）。グループ全体のジョーズ効果は、-0.2ポイントとマイナスでした。事業部門レベルでは、ジョーズ効果は+1.9ポイントとプラスでした。

**CIB部門**の営業費用は増加し（前年同期比+8.1%）、成長を支えました。ジョーズ効果は、事業部門レベル（+4.4ポイント）のみならず、グローバル・マーケット事業（+5.5ポイント）および証券管理事業（+10.9ポイント）の各事業においても極めて高水準でした。グローバル・バンキング事業では、ジョーズ効果はゼロでしたが、低いコスト／インカム率（47.2%）を達成しました。

**CPBS部門**[5]の営業費用は2.0%増加しました。ジョーズ効果は、全体でわずかにマイナス（-0.7ポイント）でした。ユーロ圏のコマーシャル&個人向けバンキング事業の営業費用は横ばいで、ジョーズ効果はプラス（+0.9ポイント）でした。トルコの高インフレにより、欧州・地中海沿岸諸国の営業費用は大幅に増加しました（前年同期比+17.7%）。それでも、ジョーズ効果はプラス（+1.8ポイント）でした。専門的金融事業の営業費用は横ばい（前年同期比+0.2%）で、ジョーズ効果は（ⅰ）パーソナル・ファイナンスの主要対象範囲（+2.3ポイント）、（ⅱ）リーシング・ソリューションズ（+2.6ポイント）および（ⅲ）ニューデジタル事業と個人投資家事業（+9.1ポイント、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+13.1ポイント）の各レベルにおいて、プラスとなりました。

**IPS部門**の営業費用は緩やかに増加し（前年同期比+2.7%）、成長および事業拡大を支えました。ジョーズ効果は、事業部門レベルでプラス（+3.9ポイント）となり、保険事業、ウェルス・マネジメント事業およびアセット・マネジメント事業の各事業においてもプラスとなりました。

リスク費用

当四半期のグループ全体のリスク費用は、766百万ユーロ[2]（前年同期は640百万ユーロ）となり、顧客向け融資残高の33ベーシスポイント相当で、顧客基盤の質の高さにより、40ベーシスポイント未満の適度な水準を維持しました。当四半期のリスク費用は、正常債権（ステージ1および2）に対する引当金の戻入9百万ユーロおよび不良債権（ステージ3）に対する引当金775百万ユーロ（前年同期は763百万ユーロ）を反映していました。2025年3月31日現在の引当金残高は18.4十億ユーロで、うち4.1十億ユーロはステージ1および2に対する引当金でした。ステージ3のカバレッジ比率は69.6%で、不良債権の割合は1.6%でした。

営業利益、税引前利益および当グループの純利益

グループ全体の**営業利益**は、3,922百万ユーロ（前年同期は3,901百万ユーロ）となりました。事業部門レベルでは、前年同期と比較して6.7%増加しました。

当四半期の法人税率は、平均で28.5%でした。

**当グループの純利益**は、当四半期において2,951百万ユーロとなり、前年同期（3,103百万ユーロ）と比較して4.9%減少しました。この減少は、前年同期の一時項目が非常に高い水準であったことのみに起因しています。

持続可能な開発

当四半期において、BNPパリバは、3つの事業部門を中心に、顧客のエネルギー転換プロジェクトへの融資を引き続き支援しました。

- **CIB部門**では、欧州連合全域の風力発電プロジェクトに最大8十億ユーロの投資を行うための協定を欧州投資銀行（EIB）と締結しました。
- **CPBS部門**では、BNPパリバの事業体である3 Step ITを通じて、年間400,000台のIT機器を処理できるIT機器再生・再販施設を新設しました。
- **IPS部門**では、BNPパリバ・アセット・マネジメントを通じて、SFDR第9条ファンドであるBNPパリバ・ソーラーインパルス・ベンチャーファンドの組成を成功裏に完了しました。同ファンドは、目標規模を上回る172百万ユーロを達成しました。

## 2025年3月31日現在の財務構造

**普通株式等Tier1比率**[9]は、2025年3月31日現在12.4%で、監督上の検証・評価プロセス（SREP）の要件（10.42%）を大きく上回り、FRTB[10]を除くバーゼル4のすべての影響（-50ベーシスポイント）を考慮しても、2025年1月1日現在と比較して安定しています。当四半期は、（ⅰ）当四半期のリスク加重資産の変動控除後の資本の有機的創出（+30ベーシスポイント）、（ⅱ）配当性向60%に基づく当四半期の利益分配（-20ベーシスポイント）、および（ⅲ）モデルの更新（-10ベーシスポイント）の複合的影響を反映していました。

**レバレッジ比率**[11]は、2025年3月31日現在、4.4%でした。

2025年3月31日現在、**流動性カバレッジ比率**[12]（期末）は133%、**適格流動資産（HQLA）**は388十億ユーロ、**即時利用可能な余剰資金**[13]は483十億ユーロでした。

## 2024年度-2026年度の目標

2025年度第1四半期の事業部門の目標は、2024年度-2026年度の期待成長率目標に沿っています。

BNPパリバは、2024年度-2026年度の目標を確認しました。

- **営業収益**：2024年度から2026年度までの年平均成長率+5%超
- **ジョーズ効果**：平均で約+1.5ポイント／年
- **リスク費用**：2025年度および2026年度において40ベーシスポイント未満
- **純利益**：2024年度から2026年度までの年平均成長率7%超
- **1株当たり純利益**：2024年度から2026年度までの年平均成長率8%超
- **FRTB適用前普通株式等Tier1比率**：約12.3%
- **2025年度の有形自己資本利益率（RoTE）**：11.5%、**2026年度のRoTE**：12%

各事業部門の成長要因は、以下のとおり整っています。

**CIB部門**は、高付加価値のプラットフォームおよび強力な成長エンジンとして、多様な顧客基盤、低リスクプロファイルおよび最適化された資本配分を強みとして、市場シェアを継続的に獲得しています。

**CPBS部門**では、2025年度において、CPBFの新たな戦略計画*が策定されるほか、パーソナル・ファイナンスの戦略計画が2028年度まで延長されます。これにより、2028年度までにグループ全体のRoTEに+1%（うち、2026年度までに+0.5%）の影響が見込まれています。コマーシャル＆個人向けバンキング事業の営業収益は、新たな金利環境により増加することが予想され、2024年度から2026年度までの年平均成長率は約4%となる見込みです。ユーロ圏における営業収益が2025年度に3%増加するという目標は確認されています。

**IPS部門**は、保険事業、アセット・マネジメント事業およびウェルス・マネジメント事業において、引き続き力強い有機的成長を維持しました。さらに、AXA IMプロジェクト[14]をはじめとする買収、ならびにウェルス・マネジメント事業および生命保険事業により、成長はさらに加速する見込みです。

当グループの多角的なビジネスモデルおよび景気循環変動に影響されない耐性は、現在の環境下において強みとなっています。具体的には、ⅰ）配当の安定的な増加（2012年度から2024年度までの年平均成長率：+10.2%）、ⅱ）1株当たり純資産額の増加（2012年度から2024年度までの年平均成長率：+5.0%）、ⅲ）安定したリスク費用／営業総利益率（2025年度第1四半期は16.3%）、およびⅳ）セクター別エクスポージャーの分散です（当グループの信用エクスポージャー[15]の4%超を占めるセクターはありません。）。

すべての事業部門が増収目標（2024年度から2026年度までの年平均成長率は、AXA IM プロジェクト[14]を含む場合は5%超、含まない場合は約4%）に貢献する見込みです。当グループは、大規模なプラットフォームを強みとして、再投資を進めている欧州を支援する上で最適なポジションにあります。2025年3月は、ドイツにおける再投資計画および2030年度準備計画の開始、ならびに欧州委員会による貯蓄投資同盟（SIU）戦略の発表により、転換点となりました。

---

* このプロジェクトは、協議のために従業員代表機関に提出されています。

# ホールセールバンキング（CIB）部門

## 2025年度第1四半期のCIB部門の業績

**CIB部門は記録的な四半期業績を達成しました。**

**銀行業務純益**（5,283百万ユーロ）は、前年同期比12.5%増でしたが、これは、グローバル・バンキング事業（前年同期比+4.5%）、グローバル・マーケット事業（前年同期比+17.3%）および証券管理事業（前年同期比+13.4%）の3つの事業部門すべてにおける好業績の影響によるものでした。

**営業費用**は、2,962百万ユーロとなり、前年同期と比較して8.1%増加し、成長を支えました。ジョーズ効果4.4ポイントのプラスとなり、コスト／インカム率は改善しました（前年同期の58.4%と比較して、当四半期は56.1%でした。）。

**営業総利益**は、2,321百万ユーロとなり、前年同期比18.7%増でした。

**リスク費用**は、65百万ユーロと低水準でした。

こうした非常に良好な業績により、CIB部門の**税引前利益**は、2,265百万ユーロとなり、10.4%増となりました。

CIB部門－グローバル・バンキング事業

**当四半期において、グローバル・バンキング事業は堅調な成長を遂げ、EMEA地域における主導的地位を確固たるものにしました。**

営業収益（1,619百万ユーロ）は、前年同期比4.5%増となり、これはキャピタルマーケット事業（+13.2%）における非常に好調な事業活動および継続的な市場シェアの獲得によるものでした。事業部門別では、キャピタルマーケット事業の営業収益は、3つの地域すべてにおいて増加しました。トランザクションバンキング業務における事業活動の勢いも維持されました。アドバイザリー業務は、市場が鈍化する中、良好な業績を達成しました。

融資残高（183十億ユーロとなり、前年同期比+2.8%[16]）および預金残高（230十億ユーロとなり、前年同期比+6.0%[16]）は増加しました。

グローバル・バンキング事業は、当四半期においてEMEA地域での主導的地位を確固たるものとし、特に（ｉ）EMEA地域のインベストメント・バンキングの手数料では第3位[17]、（ii）シンジケートローンおよび債券発行においてEMEA地域のリーダー[17]、ならびに（iii）EMEA地域における2024年度のトランザクションバンキングの営業収益では同順位で第1位[18]として、ランキングで上位に位置付けられました。

CIB部門－グローバル・マーケット事業

**グローバル・マーケット事業は記録的な四半期業績を達成し、株式・プライムサービス事業は好調な業績を維持しました。**

グローバル・マーケット事業の営業収益は、2,871百万ユーロとなり、前年同期比17.3%増と大幅に増加し、特に欧州では堅調な勢いがありました。

株式・プライムサービス事業の営業収益は、1,187百万ユーロとなり、大幅に増加しました（前年同期比+42.1%）。この記録的な四半期業績は、特にプライムサービス事業を中心としたすべての地域および事業部門における成長に支えられ、ボラティリティの上昇を背景に構造化商品およびフロー取引における株式デリバティブが好調だったことが要因となりました。

FICC事業の営業収益は、1,684百万ユーロとなり、前年同期比4.4%増でした。特に為替のボラティリティに支えられたマクロ関連の取引や先物取引およびオプション取引が好調でした。債券関連の取引は増加しましたが、レポ取引は低調でした。クレジット市場では、セカンダリーマーケットの取引とは対照的に、米国を中心にプライマリーマーケットの取引は好調でした。

ランキングでは、グローバル・マーケット事業は、マルチディーラー電子取引プラットフォームの分野の主導的地位にあることを確認しました。

市場リスクの尺度である平均バリュー・アット・リスク（VaR。信頼区間99%、保有期間1日）は、34百万ユーロとなりました（前四半期比+2百万ユーロ）。当四半期は、前四半期と比較してわずかに増加し、低水準を維持しました。

CIB部門－証券管理事業

**当四半期は、すべての成長要因が堅調に寄与したことを示しました。**

証券管理事業の銀行業務純益は、793百万ユーロ（前年同期比+13.4%）となり、増加しました。営業収益は、（ｉ）保有資産残高の増加および（ii）取引件数の増加により、堅調な事業展開ならびに正味利息収益および手数料の持続的かつバランスの取れた成長に支えられました。この取引高の増加は、市場環境および高いボラティリティによるものでした。

各セグメントおよび地域において新規マンデートが締結され、特にCrédit Mutuel Arkéaの子会社であるProCapitalとの新規マンデートには、22十億ユーロ相当の資産のローカルおよびグローバルなカストディ業務ならびに上場デリバティブの清算業務が含まれます。同時に、プライベートキャピタルのセグメントの成長も堅調でした。

平均残高は、主として市場動向および新規マンデートの実施の影響により、増加しました（前年同期比+11.6%）。主に平均ボラティリティの増加により、取引件数も増加しました。

技術革新に関しては、証券管理事業は、次世代のクライアントプラットフォームであるNeolinkに、フィンテックサービスおよび人工知能を含む高度な機能を引き続き展開しました。

# コマーシャル＆個人向けバンキングサービス（CPBS）部門

## 2025年度第1四半期のCPBS部門の業績

**当四半期は、各事業部門において良好な業績を示し、税引前利益の増加を支えました。**

**銀行業務純益**[5]は、6,532百万ユーロとなり、前年同期比1.2%増となりました。

**コマーシャル＆個人向けバンキング事業の営業収益**[5]は、4,190百万ユーロとなり（前年同期比+4.2%）、正味利息収益の増加（前年同期比+3.2%）およびすべてのネットワークにおける手数料の増加（前年同期比+6.0%）により、増加しました。プライベートバンキングの運用資産残高は増加し（2024年3月31日現在と比較して+4.9%）、Hello bank!は顧客数3.7百万人（前年同期比+5.2%）を達成し、成長を続けています。当グループの決済分野における横断的なイニシアティブでは、フランスの決済処理分野の新たなリーダーであるGroupe BPCEとのパートナーシップによるEstreemのローンチに続き、決済分野における投資が継続されました。デジタル化については、当四半期は顧客によるデジタル利用が急増しました（1日当たり約12百万件の接続、前年同期比9.4%増）。

**専門的金融事業の営業収益**は、2,342百万ユーロとなりました（前年同期比-3.6%）。アルバルの有機的銀行業務純益（金融マージンおよびサービスマージン）は急増しました。それにもかかわらず、アルバルは、引き続き中古車価格の正常化の影響を受けています。リーシング・ソリューションズにおける利鞘および組成量は改善しました。パーソナル・ファイナンスの主要対象範囲の営業収益は増加し（前年同期比+2.0%）、これは組成の増加および利鞘の改善によるものでした。Nickelは引き続き成長し（2025年3月31日現在、口座開設数[19]は約4.5百万件）、事業活動も拡大を続けました。個人投資家事業はドイツで力強い成長を達成しました。

**営業費用**[5]は2.0%増加しました。コマーシャル＆個人向けバンキング事業では、2.7%増加しました。ユーロ圏のコマーシャル＆個人向けバンキング事業のジョーズ効果はプラス（+0.9ポイント）でした。専門的金融事業の営業費用は横ばいで（前年同期比+0.2%）、（ⅰ）パーソナル・ファイナンスの主要対象範囲（+2.3ポイント）、（ⅱ）リーシング・ソリューションズ（+2.6ポイント）、ならびに（ⅲ）ニューデジタル事業および個人投資家事業の事業部門（+9.1ポイント、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+13.1ポイント）の分野でプラスのジョーズ効果が確認されました。

**営業総利益**[5]は、2,143百万ユーロとなり（前年同期比-0.2%）、**リスク費用その他**[5]は712百万ユーロ（前年同期は702百万ユーロ）となり、前年同期比1.4%増となりました。

以上から、CPBS部門の**税引前利益**[5]は、1,483百万ユーロに達しました（前年同期比+3.0%）。

CPBS部門－フランスのコマーシャル＆個人向けバンキング（CPBF）

**当四半期中、CPBFの営業収益[20]は、継続的な手数料の増加により2.6%増加しました。生命保険は、好調な資金流入を記録しました。**

預金残高は、前年同期比0.9%微減し、預金構成は安定し始めました。融資残高は、前年同期比0.7%減でした（国家保証ローンを除くと+0.7%）。これは、国家保証ローンが減少した一方で、投資ローンが増加したことによるものでした。当四半期におけるオフバランス貯蓄商品は、生命保険の資金純流入が1.3十億ユーロとなり、2024年度を大幅に上回りました（前年同期比+38%）。当四半期は、個人顧客向け資産管理の勢いが非常に好調でした。2025年3月31日現在、プライベートバンキングの運用資産残高は、140十億ユーロとなりました（前年同期比+2.3%）。

銀行業務純益[20]は、手数料の増加により1,662百万ユーロとなりました（前年同期比2.6%増）。正味利息収益[20]は、オーバーナイト取引の利鞘の改善および競争市場環境における利鞘への圧力の複合的影響により、横ばいでした。しかしながら、手数料[20]は、特にプライベートバンキングの金融手数料に支えられ、大幅に増加しました。

営業費用[20]は、1,184百万ユーロとなりました（前年同期比+1.2%）。これは、一般費用により抑制され、インフレの影響を相殺しました。ジョーズ効果はプラスでした（+1.5ポイント）。

営業総利益[20]は、478百万ユーロとなりました（前年同期比+6.4%）。

リスク費用[20]は、125百万ユーロとなり（前年同期は116百万ユーロ）、顧客向け融資残高の22ベーシスポイント相当でした。

以上から、プライベートバンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント事業（IPS部門）へ配分した後のCPBFの税引前利益[21]は、302百万ユーロとなりました（前年同期比+5.3%）。

CPBS部門－BNLバンカ・コメルシアーレ（BNL bc）

**当四半期は、手数料の伸びおよびオフバランス貯蓄商品の好調な勢いを示しました。**

預金残高は、個人顧客および法人顧客との取引高の減少に伴い微減しましたが、プライベートバンキングにより一部相殺されました。預金残高は安定し（前四半期比+0.4%）、融資残高は全体として微減しました（前年同期比-1.9%、不良債権を除くと前年同期比-1.3%）。オフバランス顧客資産（生命保険、ミューチュアル・ファンドおよび証券口座）は、2024年3月31日現在と比較して4.1%増でした。プライベートバンキングの資金純流入は非常に好調で、当四半期に1.5十億ユーロとなりました（前年同期比+6.6%）。

営業収益[20]は、731百万ユーロと横ばいでした。手数料は増加しましたが、法人向け預貸利鞘の減少および特に住宅ローンの利鞘への圧力による正味利息収益の減少により相殺されました。銀行手数料および金融手数料[20]は、大幅に増加しました。

営業費用[20]は、438百万ユーロとなり、横ばい（前年同期比-0.5%）でした。これは、インフレおよび税制の影響が、節減策および業務効率化策により相殺されたためでした。ジョーズ効果はIFRICの影響を除くとプラスでした。

営業総利益[20]は、292百万ユーロとなりました（前年同期比+0.7%）。

リスク費用[20]は、37百万ユーロと減少し、顧客向け融資残高の20ベーシスポイント相当となりました。これはステージ1および2の引当金と相まって、新たな債務不履行の減少に関連するものでした。

以上から、プライベートバンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント事業（IPS部門）へ配分した後のBNL bcの税引前利益[21]は、245百万ユーロとなり、前年同期比+16.3%でした。

CPBS部門－ベルギーのコマーシャル＆個人向けバンキング（CPBB）

**当四半期は、好調な事業活動が見られました。**

預金残高は、ベルギー国債の償還に伴う個人顧客およびプライベートバンキングの顧客の事業活動の増加により、前年同期比2.6%増となりました。法人向け預金残高は、前年同期比3.2%増でした。過去2四半期において、定期預金から普通預金やオーバーナイト取引へのシフトが起こりました。融資残高は、住宅ローンおよび法人向け貸出を含むすべてのセグメントの増加により、前年同期比2.5%増でした。オフバランス資産（生命保険およびミューチュアル・ファンド）は、ミューチュアル・ファンドの伸びに後押しされ、2024年3月31日現在と比較して4.6%増となりました。2025年3月31日現在、プライベートバンキングの運用資産残高は、83十億ユーロとなりました（前年同期比+3.7%）。

営業収益[20]は、923百万ユーロとなり、前年同期比1.0%微減でした。取引高の増加により預貸利鞘は増加しましたが、貸出利鞘（特に住宅ローン）への圧力により相殺され、正味利息収益は減少しました。手数料は、前年同期比5.3%増となり、すべての商品セグメントでプラスの傾向となりました。

営業費用[20]は、コスト節減策およびBpost Bankの統合に伴うシナジー効果により、前年同期比2.1%減の935百万ユーロとなりました。ジョーズ効果はプラスで、1.1ポイントでした（IFRICの影響を除くと+1.7ポイント）。

営業総利益[20]は、-12百万ユーロとなりました。

リスク費用[20]は、主に特定のステージ3引当金の戻入により大幅に減少し、-13百万ユーロとなりました。

以上から、プライベートバンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント事業（IPS部門）へ配分した後のCPBBの税引前利益[21]は、5百万ユーロとなりました。

CPBS部門－ルクセンブルクのコマーシャル＆個人向けバンキング（CPBL）

**当四半期中、CPBLは、預金の力強い伸びを達成しました。**

営業収益[20]は、157百万ユーロとなりました（前年同期比+1.1%）。正味利息収益[20]は、回復力のある預貸利鞘により横ばいで、前年同期における有価証券売却益に伴うキャピタルゲインのベース効果を相殺しました。

営業費用[20]は、インフレおよび特定のプロジェクトに関連して5.1%増加し、85百万ユーロとなりました。

営業総利益[20]は、72百万ユーロに減少し（前年同期比-3.2%）、リスク費用[20]は、極めて低い水準を維持しました。

プライベートバンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント事業（IPS部門）へ配分した後のCPBLの税引前利益[21]は、71百万ユーロとなりました（前年同期比-1.8%）。これは、前年同期の営業収益のベース効果によるものでした。

CPBS部門－欧州・地中海沿岸諸国

**当四半期は、堅調な事業活動により非常に好調でした。**

預金残高は、すべての国において増加しました。融資残高は、特にポーランドにおける個人顧客向けローン組成の回復により、またより広範には、トルコにおけるすべての顧客カテゴリーで増加しました。

営業収益[20]は、909百万ユーロとなり、前年同期比19.1%増でした（トルコのハイパーインフレに関連する会計基準の影響を除くと前年同期比21.0%増）。かかる力強い伸びは、利鞘の改善および決済手数料の好調な勢いによるものでした。一方、ポーランドにおいては金利利鞘が増加しました。

営業費用[20]は、594百万ユーロとなり、前年同期比18.0%増でした（トルコのハイパーインフレに関連する会計基準の影響を除くと前年同期比21.0%増）。

営業総利益[20]は、315百万ユーロとなりました。

リスク費用[20]は、顧客向け融資残高の61ベーシスポイント相当となり、金融商品に係るリスクに関するその他の純損失は、15百万ユーロとなりました（前年同期は5百万ユーロ）。

トルコのハイパーインフレにより、「その他の営業外項目」はわずかに改善しました。

以上から、プライベートバンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント事業（IPS部門）へ配分した後の欧州・地中海沿岸諸国の税引前利益[21]は、299百万ユーロとなり、前年同期比+47.7%でした（トルコのハイパーインフレに関連する会計基準の影響を除くと前年同期比+20.1%）。

CPBS部門－専門的金融事業－パーソナル・ファイナンスの主要対象範囲[8]

**当四半期において、取引高および組成時の利鞘は増加しました。ジョーズ効果はプラスとなりました。**

当四半期には、事業分野ごとの融資残高の増加（前年同期比+3.6%）およびすべての販売経路における堅調な事業活動が特徴的でした。

モビリティは、とりわけStellantisとのパートナーシップを通じて、当四半期末現在におけるローンの融資残高の増加（前年同期比+4.0%）が示すとおり、良好な業績を上げました。

フランスにおいて展開されたAppleとのパートナーシップの初期的な影響により、個人ローンおよびクレジットカードは増加しました（組成は前年同期比+9%）。

パーソナル・ファイナンスは、バランスシートを積極的に管理しており、とりわけ、スペインにおいてEIB[22]との間で自動車ローンを原資産とする新たな合成型証券化商品を発行しました（2025年3月31日現在で980百万ユーロ）。これにより、1年目でリスク加重資産が650百万ユーロ減少する見込みです。

以上から、営業収益は、新たなパートナーシップに関連した取引高の増加および組成時の利鞘の増加の影響で、前年同期比2.0%増の1,247百万ユーロとなりました。

営業費用は、0.3%減の681百万ユーロとなりました。ジョーズ効果はプラス（+2.3ポイント）でした。

営業総利益は、5.0%増加し、565百万ユーロとなりました。

リスク費用は、402百万ユーロ（前年同期は371百万ユーロ）となりました。リスク費用は、2025年3月31日現在、顧客向け融資残高の149ベーシスポイント相当でした。

以上から、税引前利益は、166百万ユーロとなり7.3%減少しましたが、これは主として前年同期には関連会社に関するプラスの影響が生じていたことによるものです。

CPBS部門－専門的金融事業－アルバルとリーシング・ソリューションズ

**当四半期中、アルバルでは、（ｉ）中古車価格の正常化および（ii）有機的銀行業務純益の大幅な増加が特徴的でした。当四半期中、リーシング・ソリューションズの営業収益は増加しました。**

アルバルのファイナンスフリートの増加（前年同期比+5.0%[23]）およびファイナンスリース残高の増加（前年同期比+14.1%）に見られるように、事業の水準は堅調でした。Arval Mobility Observatory Fleetによると、フルサービスの車両リース市場において、8,000人を超える顧客を対象とした調査によれば、37%の企業が今後3年間においてフルサービス・リースの導入または利用拡大を検討しています。中古車価格の正常化は継続しており、2026年度まで中古車営業収益の貢献度は低水準にとどまる見込みです。

リーシング・ソリューションズのファイナンスリース残高は、前年同期比1.6%増となり、利鞘も改善しました。当四半期は、機器メーカーとの合弁事業のパートナーシップの拡大、とりわけ、スペインにおけるJCBの新支店の開設およびルーマニアにおけるCNHIの新子会社の設立が特徴的でした。

アルバルとリーシング・ソリューションズの銀行業務純益は合計で840百万ユーロとなり、アルバルにおける中古車価格の傾向の悪影響により11.8%減となりましたが（中古車営業収益の貢献度：2024年度第1四半期は263百万ユーロ、2024年度第2四半期は265百万ユーロ、2024年度第3四半期は147百万ユーロ、2024年度第4四半期は52百万ユーロ）、これにより2025年度上半期に非常に大きなマイナスのベース効果が生じる見込みです。しかしながら、かかる悪影響は、アルバルにおける営業収益（金融マージンおよびサービスマージン）の力強い有機的成長（53百万ユーロの一時項目を除くと12.3%）ならびにリーシング・ソリューションズにおける取引高への影響および利鞘の改善による営業収益の増加（前年同期比+6.1%）により一部相殺されました。

営業費用は、主としてインフレおよび事業の発展により、5.4%増の414百万ユーロとなりました。中古車営業収益を除くと、ジョーズ効果は極めて高水準でした。

アルバルとリーシング・ソリューションズの税引前利益は、337百万ユーロとなりました（前年同期比-32.5%）。

CPBS部門－専門的金融事業－ニューデジタル事業と個人投資家事業

**当四半期において、事業活動は非常に好調でした。**

Nickelは、フランスおよびポルトガルにおいて、当座預金口座ネットワークとして第1位の地位を、スペインでは第2位の地位を固めました。同時に、Nickelは、オンライン決済の安全性および効率化を強化するため商品の提供を拡大し、フランス、スペイン、ベルギーおよびドイツにおいて、「クリックで支払い（click to pay）」機能を備えたデジタル・ウォレットを開始しました。

後払決済（buy now, pay later）サービスにおけるフランス最大手のFloaでは、Floa Payの導入が大幅に増加し（前年同期比+32%）、消費者ローンにおけるオンライン・カスタマー・ジャーニーの自動化および簡素化を目的とする生成AI支援サービスを展開しました。

最後に、ドイツにおいてオンライン・バンク・サービスおよび銀行業務を提供する個人投資家事業は好調な事業活動を示し、その取引高は大幅に増加しました（前年同期比+9.4%）。ドイツにおける運用資産残高は、金融市場の動向の好影響により増加しました（2024年3月31日現在と比較して+4.0%）。

以上から、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く営業収益[20]は、前年同期比13.2%増と大幅に増加し、259百万ユーロとなりました。これは、顧客数の増加および活動水準の高さによるものでした。2024年度において、個人投資家事業は、2024年度に約100百万ユーロの営業収益および約70百万ユーロの費用を計上した事業体を売却しました。

営業費用[20]は、169百万ユーロとなりました（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと前年同期比+0.2%）。ジョーズ効果は極めて高水準（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+13.0ポイント）でした。

営業総利益[20]は90百万ユーロとなり、リスク費用[20]は28百万ユーロ（前年同期は24百万ユーロ）となりました。

ドイツ国内プライベートバンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント事業（IPS部門）へ配分した後のニューデジタル事業と個人投資家事業の税引前利益[21]は、59百万ユーロ（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+80.5%）となりました。

# インベストメント&プロテクションサービス（IPS）部門

## 2025年度第1四半期のIPS部門の業績

**IPS部門の四半期業績は、好調な勢いの資金流入および大幅な収益増加により、非常に好調でした。**

2025年3月31日現在の**運用資産残高**[24]は1,384十億ユーロ（2024年12月31日現在と比較して+0.5%、2024年3月31日現在と比較して+7.9%）となりました。これは、（ⅰ）好調な資金純流入（+16.2十億ユーロ）、（ⅱ）市場動向（+2.3十億ユーロ）および（ⅲ）当四半期終盤における運用資産残高に対する為替レートの悪影響（-11.4十億ユーロ）の複合的影響によるものでした。その内訳は、アセット・マネジメント事業およびリアル・エステート[25]が625十億ユーロ、ウェルス・マネジメント事業が469十億ユーロ、ならびに保険事業が289十億ユーロでした。

**保険事業**において、貯蓄型保険業務では、主にBCC Banca Iccreaのネットワークおよび Neuflize Vieとの提携によるBCC Vitaの好調な展開により、また保障保険業務でも総資金流入が増加しました。当四半期は、「その他の項目」に計上された株式持分の再評価によるプラスの影響（168百万ユーロ）も特徴的でした。

**アセット・マネジメント事業**は、マネー・マーケット・ファンドおよび中長期ファンド双方において良好な資金流入（当四半期は4.1十億ユーロ）を達成しました。手数料は、当四半期終盤における運用資産残高に対する為替レートの悪影響にもかかわらず、市場動向の影響により増加しました。金融投資は好調でした。

最後に、**ウェルス・マネジメント事業**の営業収益は、前年同期比10.7%増でした。運用資産残高は、特に、アジアおよびコマーシャル&個人向けバンキング事業における好調な資金純流入（当四半期は9.4十億ユーロ）により増加しました。取引手数料はすべての地域で大幅に増加し、預金残高は特に米ドル建てで堅調に推移しました。

**営業収益合計**は、1,496百万ユーロ（前年同期比+6.6%）となりました。これは、保険事業（+4.1%）、ウェルス・マネジメント事業（+10.7%）およびアセット・マネジメント事業（+5.9%）における好調な勢いによるものでした。

**営業費用**は、成長および開発への支援のために、前年同期比2.7%増の907百万ユーロとなりました。ジョーズ効果はプラス（+3.9ポイント）であり、**営業総利益**は、589百万ユーロ（前年同期比+13.2%）となりました。

**税引前利益**は、757百万ユーロとなり、前年同期比36.1%増と大幅に増加しました。

IPS部門－保険事業

**当四半期は、総資金流入および営業収益が増加しました。**

貯蓄型保険業務は、主にBCC Banca Iccreaのネットワークおよび**Neuflize Vie**との提携による**BCC Vita**の好調な展開に後押しされ、総資金流入が増加しました。資金純流入は、特にイタリアで増加しました（前年同期比**+14%**）。フランス国内では、資金流入に占めるユニットリンク型契約の割合が大幅に増加しました。

保障保険業務の総収入保険料は、フランス国内では好調な損害保険および個人向け保険ならびにアフィニティ保険に支えられ、国際的にはダイナミックなパートナーシップが原動力となり、前年同期と比較して**8%**増加しました。また、当四半期において、フランス国内のアフィニティ保険における**Boulanger**とのパートナーシップが更新され、延長されたことが特徴的でした。

営業収益合計は、主にフランス国内における貯蓄型保険業務や最近の**BCC Vita**および**Neuflize Vie**の買収に支えられ、**4.1%**増の**568**百万ユーロとなりました。

営業費用は、厳格なコスト管理により**204**百万ユーロと安定していました。ジョーズ効果はプラス（**+4.6**ポイント）でした。

保険事業の税引前利益は、**533**百万ユーロとなり、前年同期と比較して**38.8%**増と大幅に増加しました。これには株式持分の再評価によるプラスの影響（**168**百万ユーロ）が含まれています。

IPS部門－ウェルス＆アセット・マネジメント事業[26]

**当四半期は、好調な事業活動に支えられ、営業収益の大幅な増加を達成しました。**

ウェルス・マネジメント事業は、特にアジア（米ドルの預金流入が好調）およびコマーシャル＆個人向けバンキング事業において、非常に良好な水準での取引および好調な資金純流入（当四半期は**9.4**十億ユーロ）を達成しました。

アセット・マネジメント事業の運用資産残高は、為替によるマイナス効果（**2024**年**12**月**31**日現在と比較して**-5.8**十億ユーロ）の影響を受けました。しかしながら、当四半期は好調な資金流入（当四半期は**4.1**十億ユーロ）を達成しました。これは、マネー・マーケット・ファンドおよび中長期ファンドの双方に支えられたほか、ETF の継続的な展開や新たなパートナーシップの締結によってもたらされました。

営業収益は、ウェルス・マネジメント事業およびアセット・マネジメント事業における金融手数料および取引手数料の増加や金融投資の好業績に支えられ、大幅に増加して**929**百万ユーロとなり、前年同期比**8.2%**増でした。リアル・エステートにおける営業収益は、市場の低迷により低水準にとどまりました。

営業費用は、**703**百万ユーロ（前年同期比**+3.7%**）に抑制されました。ジョーズ効果はプラス（**+4.5**ポイント）でした。以上から、ウェルス＆アセット・マネジメント事業の税引前利益は、**224**百万ユーロとなり、前年同期比**30.0%**増と大幅に増加しました。

# コーポレート・センター

2025年度第1四半期における保険事業に関連する修正再表示

銀行業務純益は309百万ユーロ（前年同期は274百万ユーロ）、営業費用は289百万ユーロ（前年同期は267百万ユーロ）の修正再表示となりました。以上から、税引前利益は-20百万ユーロ（前年同期は-7百万ユーロ）となりました。

2025年度第1四半期のコーポレート・センターの業績（保険事業に関連する修正再表示を除く）

営業収益の減少（当四半期は-43 百万ユーロ、前年同期は+206百万ユーロ）は、まずは資産・負債管理部における流動性によるもので、次に項目の公正価値による評価によるものでした。現在のシナリオでは、前年同期および当四半期の収益格差は、コーポレート・センター全体のガイダンスに沿って、年間を通じて逆転するものと思われます。

営業費用は288百万ユーロ（前年同期は277百万ユーロ）となり、22百万ユーロの事業再編費用と事業適応費用（前年同期は29百万ユーロ）および85百万ユーロのIT強化費用（前年同期は74百万ユーロ）の影響が含まれています。

リスク費用は7百万ユーロ（前年同期は33百万ユーロ）となりました。

「その他の営業外項目」の減少は、ウクライナにおける事業の再連結による影響（前年同期において226百万ユーロ）およびメキシコにおけるパーソナル・ファイナンス事業の売却に伴う譲渡益（前年同期において118百万ユーロ）を反映しています。

以上から、保険事業に関連する修正再表示を除くコーポレート・センターの税引前利益は、-246百万ユーロとなりました。

[1] 2025年3月28日に公表された四半期情報の修正再表示は、特に（ｉ）規則（EU） 575/2013を改正する、欧州議会および欧州連合理事会の2024年5月31日付規則（EU）2024/1623により、バーゼル3の最終化（バーゼル4）が欧州連合法に組み込まれたこと、（ii）標準化自己資本の配分がリスク加重資産の11%から12%に変更されたこと、ならびに（iii）損益および事業に関するデータがパーソナル・ファイナンスの非戦略対象範囲からコーポレート・センターに再分類されたことを反映している

[2] リスク費用には、「金融商品に係るリスクに関するその他の純損失」は含まない

[3] 当グループの純利益

[4] 期末の再評価後の1株当たり有形純資産額（単位：ユーロ）

[5] プライベートバンキングの3分の2を含む

[6] プライベートバンキングの100%を含む

[7] 2025年度第1四半期の53百万ユーロのプラスの一時項目を除く

[8] 注：2025年3月に公表された四半期情報の修正再表示に伴い、データはパーソナル・ファイナンスの主要対象範囲（地理的な重点地域の転換後の戦略対象範囲）に関するもの

[9] 規則（EU）575/2013第92条に従って算定

[10] FRTB：トレーディング勘定の抜本的見直し

[11] 規則（EU）575/2013第429条に従って算定

[12] 規則（CRR）575/2013第451b条に従って算定

[13] 健全性基準（特に米国基準。日中支払システムの需要を除く）を考慮した流動性市場資産または中央銀行の適格（相殺能力）を満たすもの

[14] 関連当局との合意に従う

[15] 法人セクター（金融および企業向けサービスを除く）、信用リスクおよびカウンターパーティ・リスクのエクスポージャー、オンバランスシートおよびオフバランスシート、グループ全体のエクスポージャー（ソブリン・エクスポージャーを含む）、金融機関および非金融機関、ならびに家計の内部分類（2024年12月31日現在、2,108十億ユーロ）

[16] 過去のレートを使用。2024年度第4四半期において報告方法に変更があり、現在報告されているグローバル・バンキング事業の資産および負債の合計には、融資残高および預金残高のみが含まれているが、以前は、有価証券およびその他の資産／負債も含まれていた。この変更を除くと、融資残高の過去の成長率は6.9%、預金残高の成長率は6.5%となる

[17] 出所：Dealogic社

[18] 出所：Coalition Greenwich社、2024年度のCompetitor Analyticsでは同順位で第1位獲得。EMEA地域（欧州、中東およびアフリカ）における2024年度のTransaction Banking（金融機関のTransaction Bankingを除くCash ManagementおよびTrade Finance）のうちのCoalition Index上位12位の銀行の営業収益に基づくランキング

[19] 創業以来のすべての国における口座開設総数

[20] プライベートバンキングの100%を含む（フランスのPEL/CELの影響を除く）

[21] プライベートバンキングの3分の2を含む（フランスのPEL/CELの影響を除く）

[22] EIB：欧州投資銀行

[23] 期末におけるフリート契約台数の増加

[24] 分配金を含む

[25] リアル・エステートの運用資産残高：24十億ユーロ。プライベート・アセットの設立に伴い、IPSインベストメンツの運用資産残高をアセット・マネジメント事業に統合

[26] アセット・マネジメント、ウェルス・マネジメント、リアル・エステートおよびIPSインベストメンツ

# 連結損益計算書 – グループ

| *損益計算書*<br>*(単位：百万ユーロ)* | **1Q25** | 1Q24 | *対1Q24* |
|---|---|---|---|
| **銀行業務純益** | **12,960** | **12,483** | ***+3.8%*** |
| 営業費用および減価償却費 | -8,257 | -7,937 | *+4.0%* |
| **営業総利益** | **4,703** | **4,546** | ***+3.5%*** |
| リスク費用 | -766 | -640 | *+19.7%* |
| 金融商品に係るリスクに関するその他の純損失[1] | -15 | -5 | n.s. |
| **営業利益** | **3,922** | **3,901** | ***+0.5%*** |
| 営業外項目 | 318 | 462 | -31.2% |
| **税引前利益** | **4,240** | **4,363** | ***-2.8%*** |
| 法人税 | -1,149 | -1,166 | -1.5% |
| **株主帰属純利益** | **2,951** | **3,103** | ***-4.9%*** |

1. *保有している金融商品の無効化または履行不能のリスクに関連する費用*

# 2025年度第1四半期事業別業績

| *(単位：百万ユーロ)* | | コマーシャル＆個人向けバンキングサービス部門（プライベートバンキングの2/3） | インベストメント＆プロテクションサービス部門 | ホールセールバンキング部門 | 事業部門合計 | コーポレート・センター | グループ合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **営業収益** | | **6,532** | **1,496** | **5,283** | **13,311** | **-351** | **12,960** |
| | 前年同期比 | +1.2% | +6.6% | +12.5% | +6.1% | n.s. | +3.8% |
| | 前四半期比 | -0.7% | +4.4% | +16.6% | +6.1% | -13.0% | +6.8% |
| 営業費用および減価償却費 | | -4,388 | -907 | -2,962 | -8,257 | 0 | -8,257 |
| | 前年同期比 | +2.0% | +2.7% | +8.1% | +4.2% | n.s. | +4.0% |
| | 前四半期比 | +9.7% | -2.1% | +1.1% | +5.1% | n.s. | +5.0% |
| **営業総利益** | | **2,143** | **589** | **2,321** | **5,054** | **-351** | **4,703** |
| | 前年同期比 | -0.2% | +13.2% | +18.7% | +9.3% | n.s. | +3.5% |
| | 前四半期比 | -16.9% | +16.2% | +45.2% | +7.9% | -15.4% | +10.1% |
| リスク費用 | | -712 | 2 | -65 | -774 | -7 | -781 |
| | 前年同期比 | +1.4% | n.s. | n.s. | +26.7% | -80.6% | +21.1% |
| | 前四半期比 | -18.4% | n.s. | n.s. | -15.4% | -75.5% | -17.1% |
| **営業利益** | | **1,431** | **592** | **2,256** | **4,279** | **-357** | **3,922** |
| | 前年同期比 | -1.0% | +14.6% | +10.1% | +6.7% | n.s. | +0.5% |
| | 前四半期比 | -16.1% | +19.7% | +43.8% | +13.5% | -19.0% | +17.8% |
| 持分法適用会社投資損益 | | 130 | 4 | 5 | 140 | 24 | 164 |
| その他の営業外項目 | | -78 | 161 | 3 | 86 | 68 | 154 |
| **税引前利益** | | **1,483** | **757** | **2,265** | **4,505** | **-265** | **4,240** |
| | 前年同期比 | +3.0% | +36.1% | +10.4% | +11.3% | n.s. | -2.8% |
| | 前四半期比 | -12.2% | +54.9% | +43.8% | +20.0% | -35.4% | +26.8% |

| *(単位：百万ユーロ)* | | コマーシャル＆個人向けバンキングサービス部門（プライベートバンキングの2/3） | インベストメント＆プロテクションサービス部門 | ホールセールバンキング部門 | 事業部門合計 | コーポレート・センター | グループ合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **営業収益** | | **6,532** | **1,496** | **5,283** | **13,311** | **-351** | **12,960** |
| | 前年同期 | 6,452 | 1,403 | 4,696 | 12,551 | -68 | 12,483 |
| | 前四半期 | 6,577 | 1,434 | 4,529 | 12,540 | -404 | 12,137 |
| 営業費用および減価償却費 | | -4,388 | -907 | -2,962 | -8,257 | 0 | -8,257 |
| | 前年同期 | -4,303 | -883 | -2,741 | -7,927 | -10 | -7,937 |
| | 前四半期 | -3,999 | -927 | -2,930 | -7,856 | -11 | -7,867 |
| **営業総利益** | | **2,143** | **589** | **2,321** | **5,054** | **-351** | **4,703** |
| | 前年同期 | 2,148 | 521 | 1,955 | 4,624 | -78 | 4,546 |
| | 前四半期 | 2,578 | 507 | 1,599 | 4,684 | -415 | 4,270 |
| リスク費用 | | -712 | 2 | -65 | -774 | -7 | -781 |
| | 前年同期 | -702 | -4 | 95 | -612 | -33 | -645 |
| | 前四半期 | -873 | -13 | -30 | -915 | -27 | -942 |
| **営業利益** | | **1,431** | **592** | **2,256** | **4,279** | **-357** | **3,922** |
| | 前年同期 | 1,446 | 516 | 2,050 | 4,012 | -111 | 3,901 |
| | 前四半期 | 1,705 | 494 | 1,569 | 3,769 | -441 | 3,328 |
| 持分法適用会社投資損益 | | 130 | 4 | 5 | 140 | 24 | 164 |
| | 前年同期 | 97 | 40 | 3 | 140 | 81 | 221 |
| | 前四半期 | 64 | -5 | 5 | 64 | 28 | 92 |
| その他の営業外項目 | | -78 | 161 | 3 | 86 | 68 | 154 |
| | 前年同期 | -103 | 1 | 0 | -103 | 344 | 241 |
| | 前四半期 | -80 | 0 | 1 | -79 | 2 | -77 |
| **税引前利益** | | **1,483** | **757** | **2,265** | **4,505** | **-265** | **4,240** |
| | 前年同期 | 1,440 | 557 | 2,052 | 4,049 | 314 | 4,363 |
| | 前四半期 | 1,689 | 489 | 1,575 | 3,753 | -411 | 3,343 |
| 法人税 | | | | | | | -1,149 |
| 少数株主帰属純利益 | | | | | | | -140 |
| 非継続事業の純利益 | | | | | | | 0 |
| **株主帰属純利益** | | | | | | | **2,951** |



BNP PARIBAS
The bank for a changing world

| *(単位：百万ユーロ)* | | コマーシャル＆個人向けバンキングサービス部門（プライベートバンキングの2/3） | インベストメント＆プロテクションサービス部門 | ホールセールバンキング部門 | 事業部門合計 | コーポレート・センター | グループ合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **営業収益** | | **6,532** | **1,496** | **5,283** | **13,311** | **-351** | **12,960** |
| | 前年同期比 | +1.2% | +6.6% | +12.5% | +6.1% | n.s. | +3.8% |
| 営業費用および減価償却費 | | -4,388 | -907 | -2,962 | -8,257 | 0 | -8,257 |
| | 前年同期比 | +2.0% | +2.7% | +8.1% | +4.2% | n.s. | +4.0% |
| **営業総利益** | | **2,143** | **589** | **2,321** | **5,054** | **-351** | **4,703** |
| | 前年同期比 | -0.2% | +13.2% | +18.7% | +9.3% | n.s. | +3.5% |
| リスク費用 | | -712 | 2 | -65 | -774 | -7 | -781 |
| | 前年同期比 | +1.4% | n.s. | n.s. | +26.7% | -80.6% | +21.1% |
| **営業利益** | | **1,431** | **592** | **2,256** | **4,279** | **-357** | **3,922** |
| | 前年同期比 | -1.0% | +14.6% | +10.1% | +6.7% | n.s. | +0.5% |
| 持分法適用会社投資損益 | | 130 | 4 | 5 | 140 | 24 | 164 |
| その他の営業外項目 | | -78 | 161 | 3 | 86 | 68 | 154 |
| **税引前利益** | | **1,483** | **757** | **2,265** | **4,505** | **-265** | **4,240** |
| | 前年同期比 | +3.0% | +36.1% | +10.4% | +11.3% | n.s. | -2.8% |
| 法人税 | | | | | | | -1,149 |
| 少数株主帰属純利益 | | | | | | | -140 |
| 非継続事業の純利益 | | | | | | | 0 |
| **株主帰属純利益** | | | | | | | **2,951** |

# 連結貸借対照表 – 2025年3月31日現在

| *（単位：百万ユーロ）* | 2025年3月31日現在 | 2024年12月31日現在 |
|---|---|---|
| **資産** | | |
| 預金および中央銀行預け金 | 199,173 | 182,496 |
| 純損益を通じて公正価値で測定する金融資産 | | |
| トレーディング目的有価証券 | 306,049 | 267,357 |
| 貸出金および売戻契約 | 304,173 | 225,699 |
| デリバティブ金融商品 | 268,540 | 322,631 |
| ヘッジ目的デリバティブ | 20,110 | 20,851 |
| 資本を通じて公正価値で測定する金融資産 | | |
| 負債性金融商品 | 76,522 | 71,430 |
| 資本性金融商品 | 1,518 | 1,610 |
| 償却原価で測定する金融資産 | | |
| 金融機関貸出金および債権 | 42,388 | 31,147 |
| 顧客貸出金および債権 | 894,201 | 900,141 |
| 負債性金融商品 | 152,637 | 146,975 |
| 金利リスクヘッジポートフォリオの再測定による調整 | (1,752) | (758) |
| 保険事業に関連する投資およびその他の資産 | 292,140 | 286,849 |
| 当期および繰延税金資産 | 5,510 | 6,215 |
| 未収収益およびその他の資産 | 172,631 | 174,147 |
| 持分法適用会社投資 | 7,271 | 7,862 |
| 有形固定資産および投資不動産 | 51,032 | 50,314 |
| 無形固定資産 | 4,364 | 4,392 |
| のれん | 5,537 | 5,550 |
| **資産合計** | **2,802,044** | **2,704,908** |
| **負債** | | |
| 中央銀行預金 | 3,593 | 3,366 |
| 純損益を通じて公正価値で測定する金融負債 | | |
| トレーディング目的有価証券 | 98,577 | 79,958 |
| 預金および買戻契約 | 394,434 | 304,817 |
| 負債証券および劣後債 | 109,302 | 104,934 |
| デリバティブ金融商品 | 247,764 | 301,953 |
| ヘッジ目的デリバティブ | 32,372 | 36,864 |
| 償却原価で測定する金融負債 | | |
| 金融機関預金 | 101,292 | 66,872 |
| 顧客預金 | 1,027,112 | 1,034,857 |
| 負債性金融商品 | 204,681 | 198,119 |
| 劣後債 | 32,546 | 31,799 |
| 金利リスクヘッジポートフォリオの再測定による調整 | (10,852) | (10,696) |
| 当期および繰延税金負債 | 3,398 | 3,657 |
| 未払費用およびその他の負債 | 142,722 | 136,955 |
| 保険契約に関連する負債 | 249,270 | 247,699 |
| 保険事業に関連する金融負債 | 20,089 | 19,807 |
| 偶発債務等引当金 | 9,472 | 9,806 |
| **負債合計** | **2,665,772** | **2,570,767** |
| **連結資本** | | |
| *資本金、払込剰余金、および利益剰余金* | *130,234* | *118,957* |
| *親会社株主帰属当期純利益* | *2,951* | *11,688* |
| **資本金、利益剰余金、および親会社株主帰属当期純利益合計** | **133,185** | **130,645** |
| 資本に直接認識される資産および負債の変動 | (3,070) | (2,508) |
| **親会社株主資本** | **130,115** | **128,137** |
| **少数株主資本** | **6,157** | **6,004** |
| **連結資本合計** | **136,272** | **134,141** |
| **負債および連結資本合計** | **2,802,044** | **2,704,908** |



BNP PARIBAS

The bank for a changing world

# 代替的業績指標（ALTERNATIVE PERFORMANCE INDICATORS）– フランス金融市場庁（AMF）の一般規則第223-1条に基づく開示

| 代替的業績指標 | 定義 | 使用理由 |
|---|---|---|
| **保険事業の損益の合計（営業収益、営業費用、営業総利益、営業利益および税引前利益の合計）** | 保険事業の損益の合計（営業収益、営業総利益、営業利益および税引前利益の合計）（なお、コーポレート・センターに振り替えられる、一部の資産の純損益を通じた公正価値会計（IFRS第9号）により生じるボラティリティを除く。売却時に実現した損益および潜在的な長期減価償却費は、保険事業の損益に含まれる。）<br><br>当グループの調整後の損益の合計は「四半期情報」の表で開示 | 営業上の本源的業績を反映した保険事業の業績の表示（技術面および財政面） |
| **コーポレート・センターの損益の合計** | 2023年1月1日から、IFRS第9号が保険事業に適用されるのと同時にIFRS第17号（保険契約）が適用されることを受けて、「コーポレート・センター（保険事業に関連するボラティリティの修正再表示（IFRS第9号）および付随費用（内部の販売会社）を含む）」の損益の合計をいい、以下を含む。<br>• IFRS第9号公正価値会計に基づく一部の保険資産の認識により生じた業績のボラティリティの、コーポレート・センターの営業収益への修正再表示<br>• 「保険事業に帰属する」とみなされる営業費用から内部マージンを差し引いた額は、営業収益から差し引いて計上され、営業費用としては計上されない。これらの会計項目は、保険契約を販売する保険事業および当グループの事業体（保険事業を除く）（すなわち内部の販売会社）にのみ関係し、営業総利益には影響を与えない。内部販売契約に関連する項目による影響は、「コーポレート・センター」に帰属する。<br><br>当グループの調整後の損益の合計は「四半期情報」の表で開示 | 個々の事業の業績の読み方を混乱させないための、「保険事業に帰属する」営業費用が内部販売契約に及ぼす影響のコーポレート・センターへの振替 |
| **事業部門の損益の合計（各事業部門の営業収益、正味利息収益、営業費用、営業総利益、営業利益および税引前利益の合計）** | コマーシャル＆個人向けバンキングサービス部門、インベストメント＆プロテクションサービス部門およびホールセールバンキング部門の損益の合計（なお、コマーシャル＆個人向けバンキング事業の損益の合計には、フランス、イタリア、ベルギー、ルクセンブルク、ドイツ、ポーランドおよびトルコのプライベートバンキングの2/3を含む）<br><br>BNPパリバ・グループの損益の合計<br>＝事業部門 + コーポレート・センターの損益の合計<br><br>当グループの調整後の損益の合計は「四半期情報」の表で開示<br><br>コマーシャル＆個人向けバンキングにおける正味利息収益は、正味受取利息（財務諸表の注記2.aに定義される）のみならずその他の収益（財務諸表の注記2.c、2.dおよび2.eに定義される）を含むが、手数料（財務諸表の注記2.bに定義される）を除く。 | BNPパリバ・グループの本業の業績を示す指標 |

| 代替的業績指標 | 定義 | 使用理由 |
|---|---|---|
| | コマーシャル＆個人向けバンキングまたは保険契約を販売する専門的金融事業の損益の合計は、「保険事業に帰属する」とみなされる営業費用に対するIFRS第17号の適用（営業収益から差し引いて計上され、営業費用としては計上されない）による会計表示への影響を除く。この影響はコーポレート・センターに及ぶ。 | |
| **プライベートバンキングの100%を含むコマーシャル＆個人向けバンキング事業の損益の合計** | プライベートバンキング全体の損益を含むコマーシャル＆個人向けバンキング事業の損益の合計<br><br>当グループの調整後の損益の合計は「四半期情報」の表で開示 | コマーシャル＆個人向けバンキング事業の業績を示す指標であり、プライベートバンキングの業績の全部を含む（プライベートバンキングは、コマーシャル＆個人向けバンキング(2/3)とウェルス・マネジメント(1/3)の共同責任のもとに置かれるが、その割合に基づきウェルス・マネジメントに損益を配分する前の数値） |
| **PEL/CELの影響を除く損益の合計（各事業部門の営業収益、営業総利益、営業利益および税引前利益の合計）** | PEL/CELの影響を除く損益の合計<br><br>当グループの調整後の損益の合計は「四半期情報」の表で開示 | PEL/CEL口座の全存続期間にわたり発生するリスクに対する引当金変動を除く、当期の損益の合計を表す指標 |
| **コスト/インカム率** | 営業費用を営業収益で除した比率 | 銀行業務における業務の効率性を表す指標 |
| **リスク費用÷期首顧客向け融資残高（単位：ベーシスポイント）** | リスク費用（単位：百万ユーロ）を期首の顧客向け融資残高で除した比率<br><br>リスク費用には、金融商品に係るリスクに関するその他の純損失は含まない。 | 事業別の貸出金残高総額におけるリスクレベルの指標 |
| **営業費用の変化（IFRIC第21号を除外後）** | IFRIC第21号に基づく税金・拠出金を除いた上で、営業費用の変化を算定 | IFRIC第21号に基づく税金および拠出金は、事業年度に関わるほぼ全額を第1四半期に計上するが、その影響を排除し、他の四半期との比較の際の混乱を避け、当事業年度の営業費用の推移をとらえる指標 |
| **自己資本利益率（ROE）** | ROEの詳細な算定方法については、決算資料に添付された「株主資本利益率」で開示 | BNPパリバ・グループの自己資本の収益力を表す指標 |
| **RONE** | 期中平均配分想定自己資本に対する税引前当期純利益（年換算額）の比率。<br>- 保険以外の事業については、想定自己資本はリスク加重資産の12%を基準として配分される。<br>- 当グループの連結保険会社については、想定自己資本はSCR（ソルベンシー資本要件）の160%を基準として算出される健全性資本をもとに配分される。 | リスク・エクスポージャーを考慮した、各事業または各事業部門に配分される自己資本の収益力を表す業績指標 |

| 代替的業績指標 | 定義 | 使用理由 |
|---|---|---|
| **有形自己資本利益率（ROTE）** | ROTEの詳細な算定方法については、決算資料に添付された「株主資本利益率」で開示 | BNPパリバ・グループの有形自己資本の収益力を表す指標 |
| **不良債権カバー率** | 金融資産（ステージ3）の引当金と当該資産の減損後残高（ステージ3）との関係を表す指標。対象となる資産は、バランスシート上およびオフバランスシートの債権を含み、受け取った担保と相殺する。顧客向けおよび金融機関向け債権には、償却原価で測定される負債および資本を通じて公正価値で測定する有価証券を含む（保険事業を除く）。 | 不良債権に対する引当の状況を表す指標 |

### 比較分析 ― 連結範囲の変更および為替レート変動による影響の排除

連結範囲の変更による影響を排除するための方法は、買収、売却など、取引の形態に依る。その計算の根本的な目的は、期間比較可能性を確保することにある。
企業を買収または新設した場合、当該企業の業績は、同企業が過年度に未だ買収あるいは設立されていなかった期間に対応する分について、連結範囲の変更による影響を除く当会計年度の期間から排除する。
事業売却の場合、当該事業体の業績は、売却以降の期間に対応する過年度の四半期について対称的に排除する。
連結の会計処理方法を変更した場合、同一条件の下に調整した四半期業績に対して、2会計年度（当期および前期）の間で存在した最も低い持分比率を適用する。
為替レート変動による影響を除いた比較分析においては、前年度の四半期（比較対象となる四半期）業績を、当四半期（分析対象となる四半期）の為替レートで修正再表示する。これらの計算はすべて、会社の報告通貨を基準に行う。

### 注：

**銀行業務純益**：本資料全体にわたり、「銀行業務純益」および「営業収益」は同じ意味で使われている。

**営業費用**：従業員給与および従業員給付制度に関わる費用、その他営業費用、有形固定資産の減価償却費、無形固定資産の償却費ならびに不動産・機械設備を含む固定資産の減損などの総額を指す。本資料全体にわたり、「営業費用」および「費用」は特に区別することなく使われている。

**ジョーズ効果**：2つの期間における営業収益の変動から、同一期間における営業費用の変動を差し引いたもの。

表中および分析において掲載された数値は四捨五入のため、内訳の合計と総数に若干の差異が生じる場合がある。

BNPパリバの組織は、3つの事業部門、すなわちホールセールバンキング（CIB）部門、コマーシャル＆個人向けバンキングサービス（CPBS）部門およびインベストメント＆プロテクションサービス（IPS）部門に基づいている。これらの部門には、以下の事業が含まれている。

- **ホールセールバンキング部門**（以下を含む。）
  - グローバル・バンキング事業
  - グローバル・マーケット事業
  - 証券管理事業
- **コマーシャル＆個人向けバンキングサービス部門**（以下を含む。）
  - ユーロ圏のコマーシャル＆個人向けバンキング事業
    - フランスのコマーシャル＆個人向けバンキング（CPBF）
    - BNLバンカ・コメルシアーレ（BNL bc）（イタリアのコマーシャル＆個人向けバンキング）
    - ベルギーのコマーシャル＆個人向けバンキング（CPBB）
    - ルクセンブルクのコマーシャル＆個人向けバンキング（CPBL）
  - ユーロ圏外のコマーシャル＆個人向けバンキング事業は、欧州・地中海沿岸諸国を中心に、特に中欧および東欧、トルコならびにアフリカにおけるユーロ圏外のコマーシャル＆個人向けバンキング事業を含む。
  - 専門的金融事業：
    - パーソナル・ファイナンス
    - アルバルとリーシング・ソリューションズ
    - ニューデジタル事業（特にNickel、Floa、Lyf）と個人投資家事業
- **インベストメント＆プロテクションサービス部門**（以下を含む。）
  - 保険事業（BNP Paribas Cardif）
  - ウェルス＆アセット・マネジメント事業は、BNPパリバ・アセット・マネジメント、BNPパリバ・リアル・エステート、非上場および上場企業・商業投資のBNPパリバ・グループのポートフォリオの管理（BNPパリバ・プリンシパル・インベストメンツ）ならびにBNPパリバ・ウェルス・マネジメントを含む。

BNPパリバは、BNPパリバ・グループの親会社である。

本プレスリリースに含まれる数値は、未監査の数値です。

2025年3月28日、BNPパリバは、特に、規則（EU） 575/2013を改正する欧州議会および欧州連合理事会の2024年5月31日付規則（EU）2024/1623によりバーゼル3の最終化（バーゼル4）が欧州連合法に組み込まれたこと、標準化自己資本の配分がリスク加重資産の11%から12%に変更されたこと、ならびに収益および事業に関するデータがパーソナル・ファイナンスの非戦略対象範囲からコーポレート・センターに再分類されたことを反映するため、2024年度の四半期の数値を修正再表示したものを公表しました。本プレスリリースに記載されている数値には、この修正再表示が反映されています。

本プレスリリースには、将来の事象に関する現在の見解および見通しに基づいた予測的な記述が含まれています。予測的な記述には、財務上の予測や見積りおよびその基礎となる仮定、将来の事象、事業活動、商品およびサービスに関連する計画、目標および見通しに関する記述、ならびに将来の業績およびシナジーに関する記述があります。予測的な記述は将来の業績を保証するものではなく、BNPパリバとその子会社および出資先企業にまつわる固有リスク、不確実性および仮定によって左右されるものです。さらには、BNPパリバとその子会社の事業展開、銀行業界のトレンド、将来の設備投資および買収、グローバルまたはBNPパリバの主要地域市場における経済状況の変化、市場競争ならびに規制といった要因にも左右されます。これらの事象はいずれも不確実なものであり、現在の見通しとは異なる結果と、ひいては現在の見通しとは大きく異なる業績をもたらす可能性があります。したがって、実際の業績は、様々な要因により、予測的な記述において見積りまたは示唆されたものとは異なる可能性があります。これらの要因には、特に、ｉ）BNPパリバの目標達成能力、ii）高金利の長期化または大幅な利下げの可能性の有無にかかわらず、中央銀行の金利政策による影響、iii）自己資本および流動性に関する規制の変更（解釈を含む。）、iv）インフレの高止まりの長期化またはインフレの再燃およびその影響、ｖ）特にウクライナでの戦争および中東における紛争に関連する、様々な地政学的不確実性および影響、vi）（フランスを含む）政治的不安定に関連する、様々な不確実性および影響、またはvii）本プレゼンテーションに記載されている事項等が含まれます。

BNPパリバは、新たな情報や将来の事象によって、予測的な記述を公に修正または更新する責任を負いません。これに関連して、「監督上の検証・評価プロセス（Supervisory Review and Evaluation Process : SREP）」は欧州中央銀行（ECB）により毎年実施されますが、BNPパリバ・グループが満たすべき所要資本比率は毎年修正される可能性があることに留意が必要です。

本プレスリリースに含まれるBNPパリバ以外の第三者に関わる情報または外部の情報源から入手した情報は、その真実たることを独自に確認したものではありません。ここに記載の情報や意見に関して、表明または保証を明示あるいは示唆してはおらず、またその公正性、正確性、完全性または正当性に依拠することはできません。BNPパリバまたはその代表者ともに、いかなる過失に対しても責任を負わず、また本プレスリリースもしくはその内容の使用により生ずる、または本プレスリリースやここに記載の情報や資料に関連して生じる、いかなる損失に対しても責任を負いません。

表中および分析において掲載された数値は四捨五入のため、内訳の合計と総数に若干の差異が生じる場合があります。

BNPパリバの2025年度第1四半期の財務情報の開示は、本プレスリリース、添付資料および四半期情報で構成されています。

四半期情報の詳細は、以下のアドレスより入手できます。https://invest.bnpparibas/document/1q25-quarterly-series 法令上要求される開示情報はすべて、登録書類（universal registration document）を含めて、https://invest.bnpparibas.comの「Results（業績）」セクションからオンラインで入手可能であり、フランスの通貨金融法典L.451-1-2条およびフランス金融市場庁（Autorité des Marchés Financiers）の一般規則第222-1条以降の規定に従い、BNPパリバが公表しています。

## Investor Relations

Bénédicte Thibord - benedicte.thibord@bnpparibas.com

**Equity**

Raphaëlle Bouvier-Flory - raphaelle.bouvierflory@bnpparibas.com
Lisa Bugat - lisa.bugat@bnpparibas.com
Didier Leblanc - didier.m.leblanc@bnpparibas.com
Olivier Parenty - olivier.parenty@bnpparibas.com
Guillaume Tiberghien - guillaume.tiberghien@uk.bnpparibas.com

**Debt & Rating agencies**

Didier Leblanc - didier.m.leblanc@bnpparibas.com
Olivier Parenty - olivier.parenty@bnpparibas.com

**Retail & ESG**

Antoine Labarsouque - antoine.labarsouque@bnpparibas.com

E-mail : investor.relations@bnpparibas.com
https://invest.bnpparibas/en/

BNP PARIBAS

The bank for a changing world